

外壁用高日射反射率塗料(遮熱塗料)

省エネ
塗料

水性サーモアイ ウォール

THERMOEYE-WALL

省エネと節電を考えた
外壁用の遮熱塗料、誕生。

日本ペイント
ORIGINAL
技術

“今日”の省エネ問題に 貢献するために、 日本ペイントができること。

独自の技術を駆使した、外壁遮熱塗料の決定版。

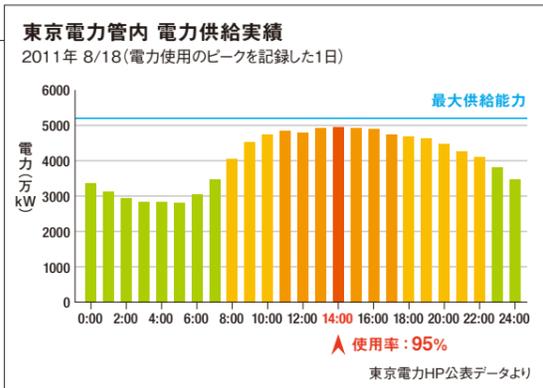
新商品、遮熱塗料水性サーモアイウォールは、外壁用の遮熱塗料。屋根用のサーモアイと同様に、上塗り、下塗りダブルで熱を反射。また、独自の赤外線透過テクノロジーによって、塗膜トータルで高い遮熱性能を発揮します。私たちが企業として、少しでも“今日”の社会に貢献できることを真剣に考え、日本ペイントの技術を駆使して作り上げた、壁用の遮熱塗料の決定版です。

サーモアイウォール **THERMOEYE-WALL** は、**電力の総使用量の削減**、**電力ピーク時の電力削減** に貢献します。

NEXT Energy-saving

これまでの省エネと、これからの省エネ

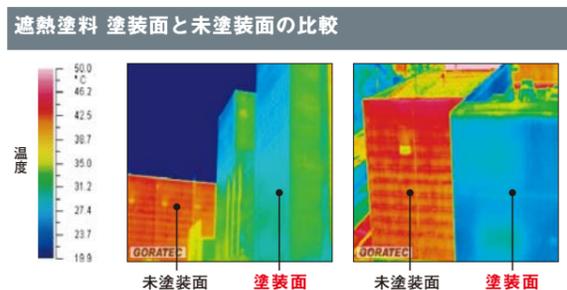
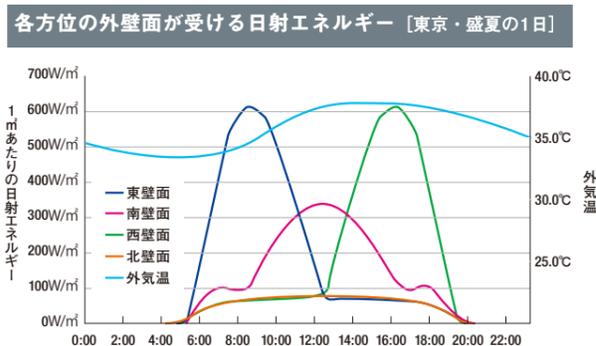
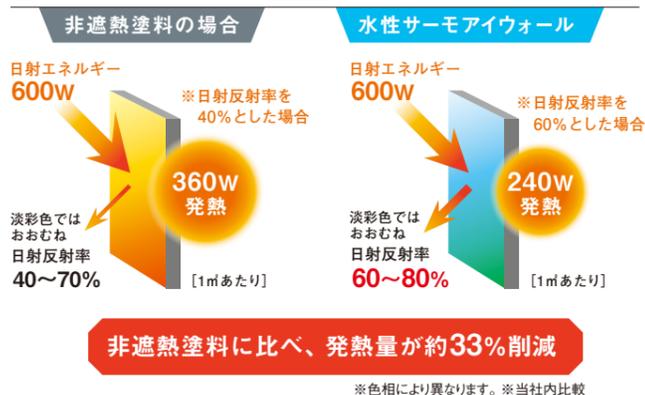
いま、社会での省エネ・節電の考え方が変わりつつあります。これまでの省エネの考え方は、「私たちが1ヶ月間、1年間トータルで使用する電力を減らすことで、コストやCO₂の排出量を削減し、環境に貢献する」というものでした。しかし今、それだけでなく、1日の中で最も電力を使用する時間＝電力のピーク時に省エネを行うことも求められています。それは同時に、社会の大きな単位である企業や個人ひとりひとりに、切実に求められている課題でもあるのです。



THERMOEYE WALL_Mechanism

蓄熱抑制効果によって、 室内温度を低減する。

真夏の外壁面は、最大で約600w/m²もの日射エネルギーを受けています。水性サーモアイウォールを塗装することで、赤外線を反射し蓄熱を抑制する効果があります。塗り替え前に比べ、日射による発熱量を大幅に削減することが可能。サーモグラフィでの比較からも、壁面の温度に大きな差が生じます。



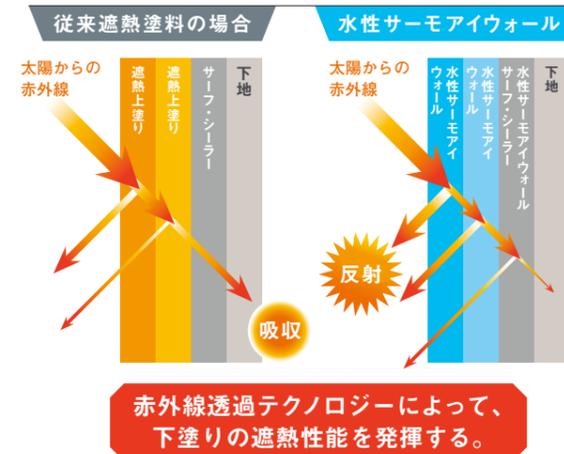
遮熱効果を高めるサーモアイの技術力 水性サーモアイウォールの特長

日本ペイント独自の技術力が生み出した水性サーモアイウォールは、上塗りの遮熱の性能はもちろん、下塗りも高い遮熱性能を発揮。さらに耐候性も備えたハイスベックな遮熱塗料です。

Feature 1 上塗り、下塗りダブル反射による 塗膜トータルで高い遮熱性能。

上塗りには「赤外線透過テクノロジー」を採用。上塗り層では反射できない赤外線を透過させることで、反射性能を有するサーフ・シーラーの遮熱効果を最大限に発揮。上塗り、下塗りダブル反射で従来塗料よりも高い遮熱性能を誇ります。

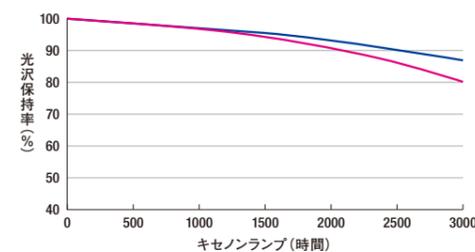
日本ペイント ORIGINAL 技術 ダブル反射 赤外線透過テクノロジー



Feature 2 高耐候性、低汚染性、防藻・防かび、透湿性によって 長時間にわたり遮熱性能と建物を維持。

遮熱性能は、塗膜表面に汚れが付着したり、色相が変化することで低下してしまいますが、水性サーモアイウォールの持つ高耐候性、低汚染性、防藻・防かび・透湿性によって、長時間に渡って遮熱性能を保持し、建物をまもることが可能となりました。

キセノンランプ促進耐候性試験



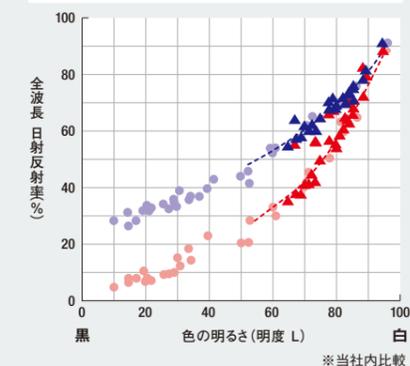
高日射反射率塗料と一般塗料の違い

遮熱塗料の効果には、色の明るさが大きく影響します。右のグラフは、色の明るさと日射反射率の関係を表したものです。従来塗料と遮熱塗料の日射反射率(遮熱効果)の差は、濃い色ほど大きくなるものの、日射反射率そのものは淡い色の方が高くなるのがわかります。場合によっては、濃い色の遮熱塗料よりも、淡い色の従来塗料の方が日射反射率が高くなることもあるので、色選びと性能発揮には深い関係があります。

- ▲ 水性サーモアイウォールF・Si
- 参考:サーモアイ4F・Si
- ▲ 一般塗料(外壁用)
- 参考:一般塗料(屋根用)

※グラフは、一般の様々な遮熱塗料と従来塗料の平均的なイメージとして表現したものです。一般の全ての製品や色相がこれに当てはまる訳ではありません。

色相明度と日射反射率(全波長領域)の関係



THERMOEYE WALL
Product
Features

水性サーモアイウォール 検証結果 実測された、高い遮熱効果。

さまざまな条件を見据えた蓄熱抑制シミュレーションを元に、実際に壁面温度測定試験を実施。水性サーモアイウォールの遮熱効果を検証しました。

Demo. 01 温度低減効果 実測データ

Verification Test

木造金属サイディング造

壁面での塗装試験では、南向きの壁において、未塗装面と比べて最大11.5℃もの遮熱効果を発揮。平均の温度差は5.6℃という結果が得られました。

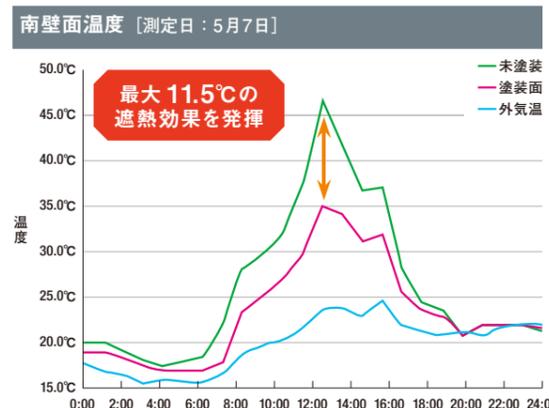


測定箇所：南壁面(色相：クールホワイト)



測定結果

Result



遮熱効果検証 南壁面

塗装面の日射反射率：クールホワイト約90%
未塗装面の推定日射反射率：約30%程度

	塗装面	未塗装面
平均温度	29.2°C	34.8°C
平均温度差		-5.6°C
最大温度	35.0°C	46.5°C
最大温度差		-11.5°C

未塗装面との比較で平均温度差5.6℃
最大温度差11.5℃の遮熱効果を発揮!

POINT

水性サーモアイウォールは、実際の測定データにおいて、高い遮熱効果を発揮しました。

建物の外装色は白・淡彩色が主流のため、塗り替える前の状態で日射反射率が高いケースがあります。このような場合には、塗り替えによって日射反射率を大きく向上させることが難しくなります。

Demo. 02 建物の断熱性能による効果の違い

塗装前・後での日射反射率の差が大きく、断熱性能が低い建物ほど、遮熱効果が大きくなります。

特許4141462に基づくシミュレーションで、実測値ではありません。

Simulation. 01

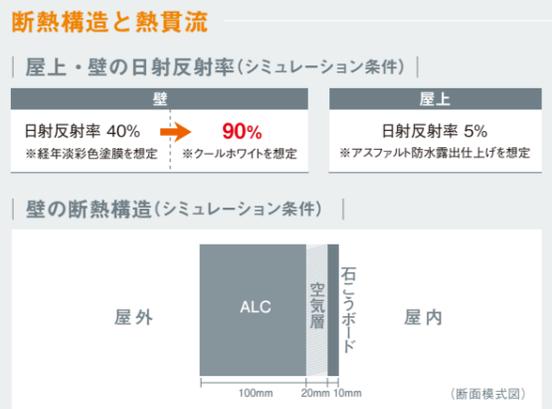
鉄骨ALC造の場合

事務所棟など

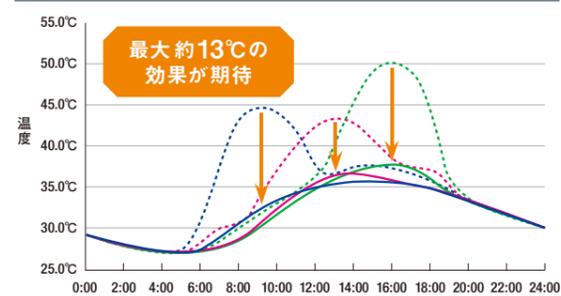
軽量気泡コンクリート(ALC)の外壁の場合、外壁表面温度は最大約13℃の低減、内壁表面温度は最大約4℃の低減が、熱貫流量はピーク平均45%の削減が期待できます。



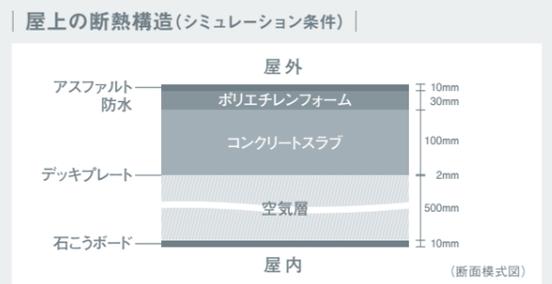
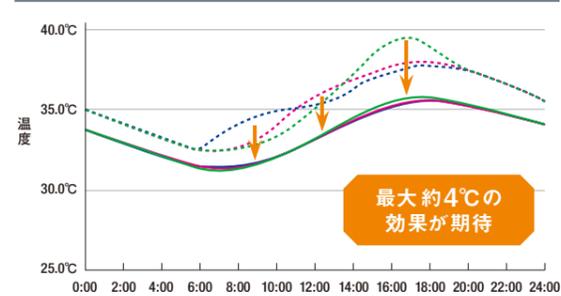
写真はイメージです。



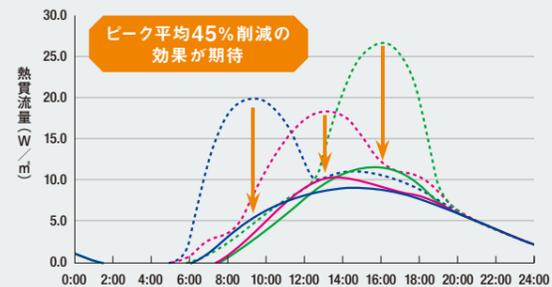
各外壁の表面温度 [東京・盛夏の1日]



各内壁の表面温度 [東京・盛夏の1日]



各壁面からの熱貫流量 [東京・盛夏の1日]



Simulation. 02

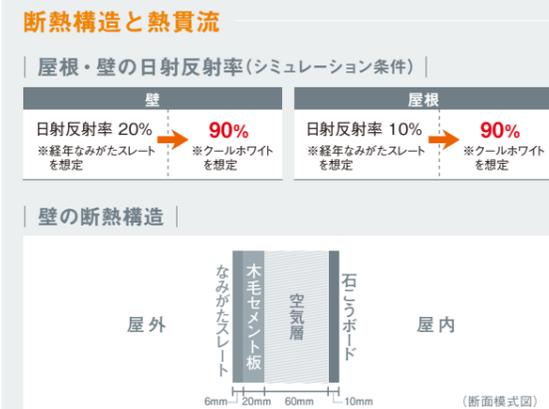
鉄骨なみがたスレート造の場合

工場棟・倉庫など

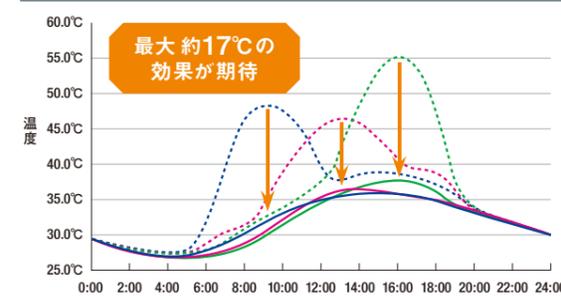
なみがたスレートの場合、外壁表面温度は最大約17℃の低減、内壁表面温度は最大約12℃の低減が、熱貫流量はピーク平均53%と大幅な削減が期待できます。



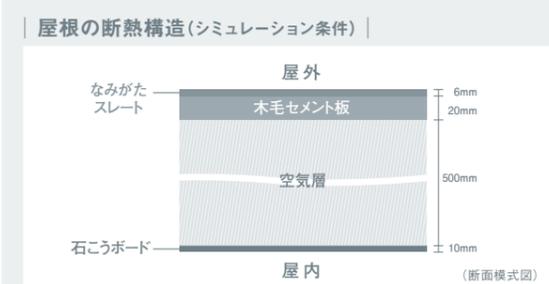
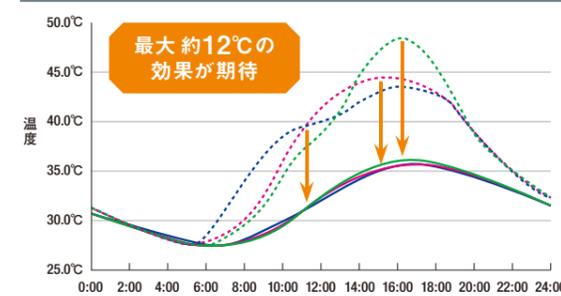
写真はイメージです。



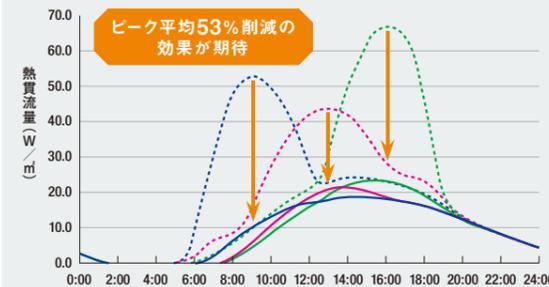
各外壁の表面温度 [東京・盛夏の1日]



各内壁の表面温度 [東京・盛夏の1日]



各壁面からの熱貫流量 [東京・盛夏の1日]



製品仕様

水性サーモアイウォールは、多くのカラーバリエーションを取り揃えており、幅広い用途でご使用いただけます。



COLOR Line up

多種多様なニーズに対応する全28色の幅広い色相ラインアップ

	クールホワイト 日射反射率：91.0%		ND-110 日射反射率：72.8%		ND-184 日射反射率：57.4%		ND-400 日射反射率：69.0%
	ND-102 日射反射率：70.1%		ND-111 日射反射率：70.9%		ND-210 日射反射率：62.6%		ND-401 日射反射率：57.8%
	ND-103 日射反射率：60.1%		ND-112 日射反射率：70.9%		ND-218 日射反射率：60.2%		ND-430 日射反射率：61.9%
	ND-104 日射反射率：75.2%		ND-146 日射反射率：67.7%		ND-250 日射反射率：69.7%		ND-460 日射反射率：67.7%
	ND-105 日射反射率：73.8%		ND-152 日射反射率：54.7%		ND-280 日射反射率：73.7%		ND-461 日射反射率：80.6%
	ND-108 日射反射率：72.1%		ND-155 日射反射率：75.9%		ND-281 日射反射率：70.2%		ND-490 日射反射率：71.5%
	ND-109 日射反射率：64.6%		ND-174 日射反射率：78.2%		ND-282 日射反射率：60.2%		ND-491 日射反射率：64.0%

★この見本は印刷のため、実物とは異なる場合があります。★塗料の種類、つやの違いにより同じ番号でも色が多少異なる場合があります。★広い面積に塗られた場合、実際の色が見本帳の色よりも多少明るく見える場合があります。★濃彩色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがありますのでご注意ください。★色見本の内容については、将来予告なしに変更することがあります。★本カタログ中に記載の日射反射率はJIS K5602に基づいたものです。

色や塗料によっては、納期までにお時間がかかる場合もあります。それぞれの地域によって異なりますので、ご発注の際ご確認ください。



商品体系

工程	商品名	系統	容量	全標準色	塗り面積 (㎡/缶/1工程)
上塗り	水性サーモアイウォール F	1液水性反応硬化形フッ素樹脂 外壁用高日射反射率(遮熱)塗料	15K	つや有り28色	88~107
	水性サーモアイウォール Si	1液水性反応硬化形シリコン系 外壁用高日射反射率(遮熱)塗料	15K	つや有り28色	88~107
下塗り	水性サーモアイウォール サーフ	水性反応硬化形 外壁用高日射反射率(遮熱)サーフェーサー	16K	—	12~40
	水性サーモアイウォール シーラー	水性カチオン形 外壁用高日射反射率(遮熱)シーラー	15K	—	93~150
	サーモアイプライマー	2液弱溶剤エポキシ樹脂 高日射反射率(遮熱)さび止め塗料	16kg セット	—	89~100



用途

工場、倉庫、戸建て住宅、教育・福祉施設、公共施設、事務所、店舗、集合住宅などの外壁

※1 塗り替えの場合、下地(旧塗膜)の状態によってはシーラーの塗装が必要。また、別途下地改修工事が必要な場合があります。
※2 新設の場合は、シーラーの塗装が必要です。

外壁素材	下塗り	上塗り
なみがたスレート外壁	水性サーモアイウォール シーラー	水性サーモアイウォール Si/F
金属パネル	サーモアイプライマー	
窯業サイディング	水性サーモアイウォール サーフ ※1	
	水性サーモアイウォール シーラー	
金属サイディング	サーモアイプライマー	
コンクリート・モルタル・ALC面	水性サーモアイウォール サーフ ※1 ※2	
	水性サーモアイウォール シーラー	

※本カタログに記載された遮熱効果を示す図表や数値は特定の場合における実測値または計算値であり、その効果を保証するものではありません。



PAINT Specification

水性サーモアイウォール 塗装仕様 [塗り替え]

なみがたスレート外壁

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法	
下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。ゴミ、砂塵、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。							
下塗り	水性サーモアイウォール シーラー ※1	1	0.10~0.16	4時間以上	水道水	0~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー	
上塗り	フッ素の場合	水性サーモアイウォール F	2	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー
	シリコンの場合	水性サーモアイウォール Si	2	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー

コンクリート・モルタル・ALC面 [平滑/なみがた仕上げ]

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法	
下地改修工事	下地改修工事が必要な場合は、下地調査結果に基づいて塗装工事前に実施する。							
下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。ゴミ、砂塵、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。							
下塗り	平滑仕上げ	水性サーモアイウォール サーフ	1	0.30~0.60	4時間以上	水道水	3~6	ウールローラー
	なみがた仕上げ			0.80~1.30			0~3	砂骨ローラー
上塗り	フッ素の場合	水性サーモアイウォール F	2	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー
	シリコンの場合	水性サーモアイウォール Si	2	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー

金属系サイディングボード・金属パネル外壁

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法	
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。さびは、電動工具やサンドペーパー・研磨布などを用いて除去清掃してください。							
(補修塗り)	サーモアイプライマー	1	0.16~0.18	4時間以上 5日以内	塗料用 シンナーA	0~10	はけ、ウールローラー	
						0~5	エアレススプレー	
下塗り	サーモアイプライマー	1	0.16~0.18	4時間以上 5日以内	塗料用 シンナーA	0~10	はけ、ウールローラー	
						0~5	エアレススプレー	
上塗り	フッ素の場合	水性サーモアイウォール F	2	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー
	シリコンの場合	水性サーモアイウォール Si	2	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー

窯業系サイディングボード

工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法	
下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。ゴミ、砂塵、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。							
下塗り	水性サーモアイウォール サーフ	1	0.30~0.60	4時間以上	水道水	3~6	ウールローラー	
	水性サーモアイウォール シーラー ※1	1	0.10~0.16			0~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー	
上塗り	フッ素の場合	水性サーモアイウォール F	2	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー
	シリコンの場合	水性サーモアイウォール Si	2	0.14~0.17	3時間以上	水道水	5~10	はけ、ウールローラー、エアレススプレー

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります) ※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。 ※遮熱塗料は、特殊な調色をおこなっていますので、使用量が少なくなると、色相が変化して見えたり、十分に隠れしなかったり、遮熱性能が低下するなどの場合があります。十分な使用量が得られるように、必ず標準塗装仕様を厳守してください。 ※下地の風化・吸い込みが著しい場合には、水性サーモアイウォールシーラーでは不十分な場合があります(特になみがたスレート外壁)。そのような場合は、下塗りにサーモアイシーラーを使用してください。 ※下地の風化・吸い込みが著しい場合には、水性サーモアイシーラーでは不十分な場合があります(特になみがたスレート外壁)。そのような場合は、下塗りにサーモアイシーラーを使用してください。

※1) カチオン性のため、他の水性塗料と混合するとゲル化することがありますので、混合したり、はけ、ローラー、エアレス装置などの共用は避けてください。

施工上の要点・注意事項

- ・遮熱塗料専用下塗りを使用しないと遮熱性能が低下します。必ず専用の下塗りをご使用ください。
- ・遮熱塗料では、特殊な顔料を使用しているため、使用量が少ないと色相が変化して見えたり、十分に隠れないことがあります。十分な使用量が得られるように、標準塗装仕様を厳守してください。

【下塗り(水性サーモアイウォールシーラー)】

- ・本品は規定の塗り重ね乾燥時間より早く上塗りを塗装しますと、縮み、割れ、乾燥不良を起こしますので、塗り重ね乾燥時間を守ってください。また、吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗り重ね乾燥時間は長めにしてください。短時間で上塗りを塗装しますと、溶剤による膨れや縮みなどが発生するおそれがありますので避けてください。
- ・他の水性塗料と混合するとゲル化することがありますので、混合したりは、はけ、ローラー、エアレス装置などの共用は避けてください。
- ・容器に小分けする場合はポリ容器をお使いください。(鉄製、ブリキ製は腐食します)

【下塗り(水性サーモアイウォールサーフ)】

- ・規定の希釈率を超えたり、規定の使用量以下で塗装した場合は、期待する弾性機能が発揮されないおそれがあります。
- ・塗り替えの場合で下地がぜい弱な場合や吸い込みが大きい場合、または新設塗装工事の場合には、水性サーモアイウォールシーラーを下塗りしてください。
- ・旧塗膜が高弾性塗膜の場合は適用できない場合があります。
- ・開缶後放置する時は皮が張らないようにポリエチレンシートなどでシートし、保管してください。
- ・弾性塗料は塗膜が伸びるのでクラック追随性を有しますが、地震・台風・軟弱地盤など予想を超えた震動、従来の壁と違った特殊構造(特殊な力)などにより、本来のクラック追随性を発揮できない場合があります。
- ・塗装後、養生テープはナイフカットして取り外してください。
- ・本品の上塗りに弾性塗料のある上塗り以外の塗料を使用しますと、上塗り塗膜にクラックが入りやすくなり、付着性・耐候性が低下しますので避けてください。
- ・改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を傷し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認の上、塗装仕様をご確認ください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分にしてください。
- ・開缶後は皮張りしやすいため、表面にうすく希釈剤を張り、ふたをしておくと、皮張りを遅くすることができます。

【上塗り(ニッパサーモアイプライマー)】

- ・なみがたトタン山の部分やトタン板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。先に拾い塗りをし、膜を長持ちさせることです。
- ・塗り重ねは規定の塗り重ね乾燥時間を守ってください。硬化が不十分な場合は、塗料用シンナーで再溶解するおそれがあります。
- ・塩ビ鋼板の上の塗装は、避けてください。ただし、経年つやが引けるような塩ビ鋼板に対しては、変性エポキシ樹脂プライマーを下塗りを使用することで塗装できる場合があります。詳細は事前にご相談ください。
- ・さびは、ワイヤブラシ・サンペーパーなどで急に除去し、膨れ・割れの発生にも注意し、十分なケレンを行ってください。
- ・溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者への配慮をお願いします。
- ・所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率を守ってください。
- ・硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- ・エポキシ樹脂系ですので、皮膚に付着するとかぶれを引き起こすおそれがあります。肌に着かないよう特に注意してください。
- ・塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ・改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響

により、旧塗膜を傷し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認の上、塗装仕様をご確認ください。

- ・塗装場所の気温が10℃以下、湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかつたり、仕上がりが作業性が低下することがあります。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分にしてください。
- ・はけなどの塗装用具の洗いは、ラッカーシンナーを使用してください。
- ・上塗りに強溶剤系塗料のご使用は避けてください。

【上塗り(水性サーモアイウォールF、SI)】

- ・風化面・吸込みの著しい下地や素材にセメント成分などが使われており、エアロレッシングが発生するおそれがある場合は、溶剤系のサーモアイシーラーをご使用ください。
 - ・防露・防かび・抗菌効果は、繁殖を抑制するものです。既に繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
 - ・被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が現れない場合があります。
 - ・状況に応じて、汚染が発生しそうな箇所には、クリスタコートを塗装することをすすめます。
 - ・色相によっては降雨、結露によって濡れ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
 - ・乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
 - ・スプレーノズルの先端は、時々水洗いをしてください。作業効率の低下および塗りむらの原因になります。
 - ・塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、樹脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
 - ・既存塗膜のニッパ塗膜は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
 - ・シーリングの上、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
 - ・蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階で既に旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
 - ・可塑剤が多く含まれる塩ビ鋼板、塩ビパイプ、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
 - ・平滑仕上げや顔面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- ### 【仕様全般】
- ・遮熱性能は、色相によって異なります。詳細については、お問い合わせください。
 - ・絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、黄色い粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
 - ・塗装後24時間以内など乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生する恐れがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後拭き取って除去してください。
 - ・乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。
 - ・反応硬化タイプの塗料のため、使用後のはけなどはできるだけ早く水

- で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- ・動物はけは、はげが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄面としてください。付着阻害をおこなうおそれがあります。・既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・風化面・吸込みの著しい下地では、サーモアイシーラーをご使用ください。
- ・シーリングの上、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・蓄熱されやすい建材(軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階で既に旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- ・塗装場所の気温が5℃以下、湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗料の取り扱いは、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッパブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・塗料は内容物が均一になるようによくは混ぜてください。薄めすぎは隠れい力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・大型壁面塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず揃えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法等の条件を揃へておこなってください。
- ・はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌質が異なるため若干の色相差が生まれるので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相が異なって見えることがあります。
- ・塗装方法により色相が多少変化する場合もありますので、ローラー塗りは出来る限り入り隅まで入れてください。
- ・塗料は内容物が均一になるようによくは混ぜてください。薄めすぎは隠れい力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・汚れ、傷などにより補修が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず揃えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法等の塗装条件を揃へておこなってください。
- ・ローラー・ハケなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、ハジキなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご利用ください。
- ・使用前に内容物が均等になるようによくは混ぜ、開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・大気中の浮遊塵埃が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、製品安全データシート(MSDS)をご参照ください。

安全衛生上の注意事項(水性サーモアイウォール SI)

- ・本来の用途以外に使用しないでください。
- ・使用前に取扱説明書を理解し、取り扱ってください。
- ・粉じん / ガス / 蒸気 / スプレー等を吸入しないでください。
- ・汚染された作業衣は密封袋に入れて作業場から出してください。
- ・取扱後は、手洗いおよびうがいを十分にしてください。
- ・適切な保護手袋 / 防毒マスクまたは防塵マスク / 保護眼鏡 / 保護面 / 保護衣を着用してください。
- ・必要に応じて個人用保護具を使用してください。
- ・飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡してください。口をすすいでください。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用している容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
- ・肌の刺激が続く場合は、医師の診断 / 手当てを受けてください。
- ・皮膚に付いた場合、多量の水と石鹸で洗ってください。

- ・取り扱った後、手を洗ってください。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断 / 手当てを受けてください。
- ・直ちに、すべての汚染された衣類を脱いでください。取り除いてください。再使用する場合には洗濯してください。
- ・粉塵、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった時には、安静にし、必要に応じてできるだけ医師の診察を受けてください。
- ・曝露した時、気分が悪いなどの症状がある場合は、医師に連絡してください。
- ・緊急の洗浄が必要な場合、直ちに特別処置を実施する。
- ・容器からこぼれた時には、砂などを散布した後処理してください。
- ・施設で子供の手が届かないところに保管してください。
- ・直射日光や水濡れは厳禁です。
- ・塗料等の缶の積み重ねは3段までとさせていただきます。
- ・日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上

- (スプレー缶の場合は40℃以上)の温度に曝露しないでください。
- ・内容物 / 容器を廃棄する時には、国 / 地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- ・塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。
- ・容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

- *上記の表示は、一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
- 詳細な内容、表示例以外の商品については、製品安全データシート(MSDS)をご参照ください。
- 本品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。



- ・飲み込むと有害のおそれ
- ・強い眼刺激
- ・重篤な眼への刺激
- ・吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

- ・アレルギー・性皮膚反応を引き起こすおそれ
- ・発がんのおそれの疑い
- ・生殖機能または胎児への悪影響のおそれ

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。
本カタログ中の商品名・会社名は、日本ペイント株式会社・その他の会社名、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
※©Copyright 2012 NIPPONPAINT Co., Ltd All rights reserved.
「サーモアイ」登録第5170956号は、日本ペイント株式会社が権利者の登録商標です。

●さらに詳しい情報は、専用Webサイトへアクセス
サーモアイ
<http://www.nippe-powerfactory.com/thermoeye/>

日本ペイント株式会社

お客さまセンター
☎ 03-3740-1120
☎ 06-6455-9113
<http://www.nipponpaint.co.jp/>

- 当社は2012年7月現在、ISO14001を全事業所で認証取得しております。
- このカタログは再生紙を使用しています。

カタログNo.
NP-Q05
BW120725T
2012年7月現在